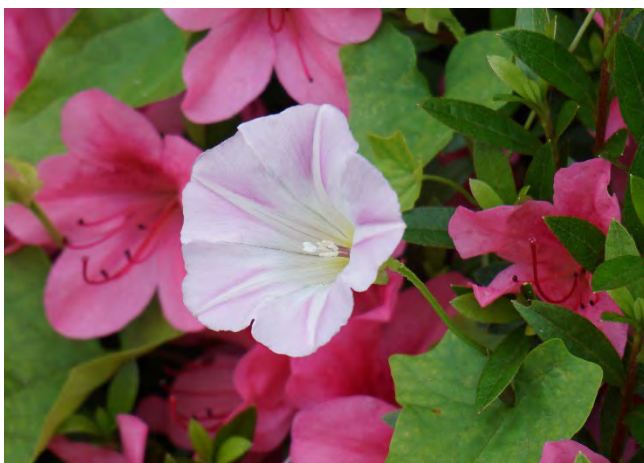


函館高専 学校だより



本校敷地内ロータリーに咲くヒルガオ

学校だより 第216号
～2023年7月号～

【目次】

校長・副校長よりご挨拶	p. 1
専攻科長から	p. 5
進路支援室から	p. 6
各学科・コースのご紹介	p. 8
第1学年担任団よりご挨拶	p. 11
新1年生を代表して	p. 14
各学年主任よりご挨拶	p. 15
新任教員紹介	p. 17
新任職員紹介	p. 19



校舎外観

独立行政法人国立高等専門学校機構
函館工業高等専門学校
National Institute of Technology
(KOSEN), Hakodate College

校長からのご挨拶

『自分で体験する学習の重要性』

函館工業高等専門学校長 阿部 恵

函館高専のキャンパスは賑やかな声と明るい笑顔で、活気に満ちてきました。

学生の皆さん、保護者の皆様、そして関係者の皆様には、3年余り続いた新型コロナウイルス感染症予防対策に多くのご協力とご理解をさせていただき、誠にありがとうございました。

「何かを学ぶのに、自分自身で体験する以上に良い方法はない」とは物理学者アインシュタイン博士の言葉です。高専が60年前に国内の中堅技術者の養成を主たる目的とした教育機関として発足し、高い評価を受けてきた背景には、実験・実習という体験を重視した専門教育を行うことにより、知識と技術が身に付けられるカリキュラムとなっていることがあります。さらには、開講している卒業研究や専攻科のPBL等の授業において、企業、自治体、大学等の産学官と連携のもと、開発共同研究を通して社会実装等につなげるなど、体験を通じた学びを学内外で実施する体制を整えてきたことが、すぐれた実践的技術者養成につながってきました。



昨今、高専を取り巻く環境は社会ニーズが大きく変化し、将来の変化を予測することが困難な時代になってきています。技術者に求められる資質・能力は高度化・多様化し、卒業生の進路も多様化しています。高専卒業生のほとんどが就職していた時代から、現在は本科卒業生の約4割が専攻科への進学、または4年制大学への編入をしています。さらには、専攻科卒業生の約4割が大学院に進学しています。しかしながら、体験を通じた学びの重要性は変化していません。むしろ、ますます重要になってきています。

これからの社会変化や多様な社会のニーズに対応していくためには、今までのカリキュラムや体制を基盤に、国内の教育機関、企業、地域等との連携のみならず、海外の教育機関や企業等との連携を強化した体験学習を重視した教育へとさらに展開していくことがますます重要になってきています。例えば、留学生と日本人学生による協働の地域貢献活動、海外派遣・受入プログラム、海外の教育機関・企業インターンシップ等への積極的な参加を通して、学生たちはそれまでとは別な視点から物事を考えることにより、問題意識が芽生え、学びに主体性が生まれ、大きく成長します。

これからは、今まで以上にテクノロジーが発展し、情報が溢れ、世界の変化も加速化していくことが予測されています。このような時代だからこそ、自分で体験をして、自ら見て、聞いて、考えることが必要です。本校では学生たちが様々な体験ができる環境を引き続き整えてまいります。学生の皆さんが積極的に様々な活動に参加して、その体験を通して大きく成長することを期待しています。

今年度も学生の皆さんが生き生きと学生生活を送ることができるよう、教職員一同、全力で支援してまいります。保護者の皆様、関係者の皆様には引き続きご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

副校長からのご挨拶

『「未来がつくる現実」～自分は何をしたいのか?～』

教務主事 柳谷 俊一

新年度がスタートして早いもので2か月が経過しました。新入生のみなさんの多くは高専生活に慣れたことと思います。普通高校とは違って5年間の長丁場です。目標をしっかりとって学生生活を送ってください。2年生以上の方にとっても目標設定は大切です。卒業後の自分の姿をイメージし、それに向けた目標を設定し、着実に成長する姿が理想です。



■「未来→現在→過去」に向かった「時間」の流れ

目標設定には「時間」についての視点を変えてみるのが有効だと言われています。一般的に「時間」は「過去→現在→未来」へ向かって流れていると考えます。例えば、あなたが持っているスマホは、あなたが過去に買ったから、今持っているということになります。来年発売されるモデルを現在持っているということはありません。

視点を変えて「時間」は「未来→現在→過去」に向かって流れると考えてみます。(認知心理学ではこのような考え方があるそうです)。例えば、夏休みになったら1週間東京へ一人旅すると決めたとします。すると、旅行に向けて航空チケットを調べたり、宿泊先を調べたり、買い物や遊びに行く場所を調べたりするでしょう。なぜ、そのような行動をするかというと、それは旅行へ行くという「未来」を決めたからです。そんなの当たり前だという話ですが、東京へ旅行に行かない人がその準備をすることはありません。先に未来を決める、つまり未来の「ビジョン」を持つと、今すべきことが見えてくるのです。

■「自分は何ができるのか?」ではなく「自分は何をしたいのか?」

自分の将来について「何ができるのか?」と考えるのは「過去→現在→未来」の時間の流れで、過去の自分がやってきたことがベースになっています。これまで自分は一人旅をしたことがないから思い切った行動は控えようとか、レストランに一人で入ったことがないから食事はコンビニで済ませようかなど、過去の経験の範囲で行動を考えます。そうすると、さまざまな行動に制限がかかることになります。

一方、「何ができるのか?」ではなく「何をしたいか?」と考えるのが「未来→現在→過去」の考え方です。「東京に行ったら好きなアーティストのライブに行こう」「有名店で食事してみよう」などなど、過去にとらわれずに自分の望む未来は自由に決定できます。行動の可能性は大きく広がります。

■「時間」に対する考え方はその人次第

「時間」については「過去から未来の流れ」「未来から過去への流れ」という考え方の他に、「時間は存在しない」という概念もあるそうです。どの考え方を取るかはその人次第ですが、過去の経験を糧として、未来の希望、可能性を目標設定して、目の前の今すべきことに取り組むことが大事だと思います。

副校長からのご挨拶

『課外活動の活性化に向けて』

学生主事 渡辺 力

本年度より学生主事を務めます社会基盤工学科の渡辺です。学生の皆さんならびに保護者の皆様には、よろしくお願いたします。

さて、2020年序盤に感染拡大した新型コロナウイルスは、経済に深刻な景気後退をもたらしました。教育現場においても、教育の停滞をもたらしたことは言うまでもありません。中学校や高校では休校となる中、函館高専ではオンライン授業により急場を凌ぎましたが、課外活動についてはそのような手立ても無く、活動中止や活動制限を設けざるを得ない状況にありました。これにより、本校においてもクラブ活動やボランティア活動などの課外活動が大きく停滞してしまいました。

5月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられ、活動の制約も大きく緩和されました。課外活動の活性化に向けての明るい兆しが見えて参りましたが、新型コロナウイルス感染症はまだ収束していませんし、変異株などの不安も未だあります。このような状況の中で、今年度は課外活動を活性化させ、コロナ禍前の姿を取り戻すための重要な年となります。

このような状況の中で、本校では、本年度より『函館高専 活力向上プロジェクト』を実施しています。これは、学生に自主性と創造性を発揮できる機会を提供し、修学意欲を促進することによって、コロナ禍において停滞した学生生活に活力を与え、函館高専全体の活力を向上させることを目的としたものです。学生から、学生生活をより快適に、より充実したものにするためのアイデアを募集し、採択されたプロジェクトに必要な予算を支援する取り組みで、本校の学生自身が、企画・運営・実施することが応募の要件となります。この活力向上プロジェクトが、本校にける課外活動の活性化の起爆剤になればと考えているところです。

一方、この3年間、学生会行事についても中止を余儀なくされてきましたが、昨年度は何とか全ての行事を実施することができました。本年度の学生会は、原田創太さん(会長4Z)、石橋優一さん(副会長4C)、伊山夏椰乃さん(副会長3C)、福井宥真さん(会計4Z)、白戸公紳さん(会計3C)の学生会役員を中心に、「新しい取り組みの導入」「早めの企画・立案」を目標にして、これまで以上に活発に活動を行っています。

学生会が中心となって校内を盛り上げ、クラブ活動やボランティア活動などの課外活動が活性化され、学生生活がコロナ禍前の姿を取り戻すことを大いに期待しています。



校長と学生会役員の懇談会の様子

副校長からのご挨拶

『寮務主事より』

寮務主事 川上 健作

令和5年度より寮務主事を拝命しました生産システム工学科の川上です。春潮寮では令和5年度より様々な制度変更があります。まずは、門限時間が男女ともに1年生から3年生は21時、4年生以上は22時に変更になっています。また、昨年度まで国際寮だったものが正式に春潮寮国際棟となり、国際棟では日本人学生と外国人留学生、短期の国際インターンシップ生が共同で生活しています。それらを含めまして令和5年度は、新入寮生1年男子24名、1年女子17名、4年女子1名、5年男子1名、3年男子留学生3名が新たに加わって、男子145名、女子58名、計203名の学生が春潮寮で生活しております。



本年度は本校でも新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、寮においてもマスクの着用は本人の判断となるなど、寮においても様々な制度がコロナ禍以前の体制に戻っております。実際には、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したゴールデンウィーク明けより、食堂のレイアウトや座席数制限、食事時間の学年分け、入浴の学年別時間、共用部に多人数が集中しないための個室消灯解除が廃止となり、通常ルールに戻っています。

さて、寮生活の最大のメリットは、集団で学生同士の交流を図りながらルール守って共同生活を送る中で育まれる学生同士のつながりだと考えます。ここ3年ほど、遠隔授業による閉寮や様々な制限、寮行事の中止などがありましたので、寮においても学生のつながりがあまり作れなかったと思います。本年度はこれらの制限もなくなり、寮の行事についても実施する予定で、4月から新入寮生歓迎集会、学科別懇談会、防災訓練、寮生会定期総会などを実施しています。今後も七夕交流会、寮祭や追いコンなど実施されますので、これらの行事を通して学生同士の交流が以前のように図れると期待しています。

このように本年度は様々なルールや対応が変わる年になりますので、寮生の皆さんや保護者の皆様にもご理解、ご協力のほどを何卒お願いいたします。皆様が安心して寮生活送れるように、函館高専寮務委員会、寮務係一同、学生の支援をしていきたいと考えています。



春潮寮外景



春潮寮国際棟外景

『自ら考えることが大切だ』

専攻科長 平沢 秀之

恐ろしい時代になった。分からないことは、ChatGPTに尋ねれば大体は答えてくれる。作文したいときも、どのように書いたら良いかを聞けば、素晴らしい文章を作成してくれる。今まで時間をかけて苦労して書いた作文より上手い日本語で言葉巧みな文章が数秒で画面に表示される。面白いから、いろいろ試してみた。「私は誠実な人間で協調性もあります。私をPRする良い表現の仕方を教えて下さい。」とChatGPTに入力した。就職対策にも使える例だ。早速、3つの例文が表示された。①「私は誠実さと協調性を大切にし、チームメンバーや関係者との円滑なコミュニケーションを重視しています。常に相手の意見や視点を尊重し、協力して目標達成に向けて努力します。」②「私は誠実さと協調性を持ち合わせたチームプレーヤーです。チームの一員として、互いにサポートし合いながら効果的な協力関係を築き、共に成長することを重視しています。」③「私の最大の強みは、誠実さと協調性です。仕事に取り組む際には、信頼と透明性を大切にし、他の人々との協力を通じて最良の結果を追求します。常に柔軟な姿勢でチームに貢献し、目標達成に向けて努力します。」3つの例文は、そのまま就職用のエントリーシートに書けるほど完成度の高い文章だ。ChatGPTの回答には、「この表現はあくまで例であり、カスタマイズできる。自身のポジティブな特徴を明確に伝えることが重要…」とのアドバイスまである。作文が苦手な人には有難いかも知れないが、これではいつまで経っても作文が上達しないだろう。しかし、3つの例文を良く読むと、誠実で協調性のある人なら誰にでも当てはまる、と言える文章だ。自分だけに当てはまる特徴が何も無い。そこにカスタマイズの余地がありそうだ。



教員は職を失うかも知れないと焦る。ChatGPTは専門分野でも正しく回答できるか聞いてみた。「構造力学分野の専門用語である、曲げねじり、と、そりねじり、について教えて下さい。」これは、大学院修士課程レベルの専門用語である。ChatGPTの答えは、「曲げねじり(Bending-Torsion): 曲げねじりとは、構造物や材料が曲げとねじりの両方の力を受ける状態を指します……(以下省略)。そりねじり(Slope-Torsion): そりねじりは、構造物や材料が水平方向の変位(そり)とねじりの力(ねじりモーメント)を受ける状態を指します……(以下省略)。」とのことであつたが、これは完全な間違いである。まず、曲げねじりとそりねじりは同じであること、その英語表記は、Warping Torsionであること、更に、そりは軸方向変位であり、それが拘束されることで曲げねじりの状態となるのである。他にもいくつか質問してみたが、かなり間違いを犯すことが分かった。少し安心した。職を失わずに済むな。

ChatGPTを含む生成系AIの利用については、本校から本科生・専攻科生に以下のような注意が与えられている。基本的には利用して良いが、科目ごとに利用の可否を確認、正確かどうかを要確認、自ら考えること。これらは上記の実例からも重要なことが分かる。更に個人情報・機密情報も入力してはいけないことになっている。それにしても、このようなAIの進化は我々人間の生き方を考えさせられる。(やはり職を変えるか?)

進路支援室から

『キャリアセンターから進路支援室へ』

進路支援室長 清野 晃之

進路支援室はこの4月、キャリアセンターから名称が変更となり、総合学生支援センターの下部組織となりました。業務はこれまでと同じく、就職・進学を支援するための情報収集・管理を行っており、進路支援室では、各企業の求人票やパンフレット、大学編入学に関する資料などを閲覧できます。また、3年生頃からはスマホやPCでも情報収集できるように「高専キャリアサポートシステム」を利用することができます。特に4年生や専攻科1年生はインターンシップ情報を見ることで実習先を検討し、後半から翌年度にかけて、求人や大学の情報を見る機会が増えます。



就職・進学の支援の一つに説明会がありますが、従来の対面形式の他にWeb（オンライン）で参加するイベントも増えております。また、就活での適性検査（SPIなど）や面接でもWebを利用する企業が増えており、Web対策も必要となってきました。今年度の就職は人手不足もあり、企業の動きが早まったことから、次年度もこの傾向は続くことが予想されます。4年生や専攻科1年生の皆さんは年明けから就活がスタートする気持ちで臨んでください。進学についても大学の情報収集や過去問を早めに解くことで難関大学合格を目指しましょう！



高専制度創設60周年記念事業 記念植樹「高専の森」
(令和5年6月22日実施)

各学科・コース紹介

『設計できる機械技術者を目指そう!』

生産システム工学科機械コース長 本村 真治

機械コースでは『人と環境のために役立つアイデアを、実際に使える「機械」として形にする(つくる)ことができる技術者の育成』を目指しています。そのために必要な能力を身に付けるため、材料の性質や強度、加工、運動、制御、エネルギーなど機械に関する専門知識と技術を、座学と実験実習を通して体験に学びます。なかでも機械設計は重要で、どんなに良いアイデアも、それを形にするための設計図がなければ製作できません。そのため設計技術に関する授業はカリキュラムの中でも重きを置いています。



学生の皆さんには、例えば面接で「設計できますか?」と尋ねられたときに、「設計ですか。やればできますよ!」と自信を持って言ってほしいのですが、その自信の根拠となる経験は、日頃の授業の中ですべて体験できますので、自信なさげな学生さんも心配無用です。また、この経験(自信)は、高専の機械コースで学ぶ学生だからこそ獲得できるものであり、機械設計職に就くためだけでなく、企業での新技術開発や大学での基礎研究へ挑戦するときの強固な基盤となります。

今、気候変動やエネルギーなど様々な課題解決のためのアイデアを、具体的な機械システムとして形にできる機械技術者がが必要です。「設計できる」と自信を持って言うために必要なカリキュラムと学ぶための環境が函館高専にはありますし、我々教職員もしっかりサポートしていきますので、明るい未来のために、共に励みましょう。

『明るい未来社会を創り出すエンジニアになろう』

生産システム工学科電気電子コース長 中津川 征士

私たちをとりまく社会での技術革新のスピードは従前にも増して加速しています。特に、生成AIの進歩が頻繁に話題になるように、私たちのライフスタイルは急速に変わろうとしています。また、エネルギー、モバイル通信、バイオエレクトロニクス、ロボット、暗号、量子コンピュータ、ナノテクノロジー等の技術も個々に進歩するだけでなく有機的に融合することによって新たな革新が生まれ、今までとは異なる未来の生活をもたらします。



これらの最先端技術は、いま学生の皆さんが学んでいる、発電・送電、無線通信、電気・電子回路、信号処理、制御工学、電子材料等の多くの電気・電子工学分野における基礎的な技術を核として発展し続けています。電気電子コースでは、これらの技術についての授業や実験を通じ、基礎から応用に渡って知識と実践力を獲得することができます。

未来の社会を支える電気電子エンジニアの役割はますます重要になってきています。学びに真摯に向き合って、私たち自身の能力と可能性を伸ばし、私たちの手で、私たちの生活する未来の社会を、安心・安全で持続可能な素晴らしいものとして創り出していきます。

各学科・コース紹介

『情報教育の高度化へ向けて』

生産システム工学科情報コース長 後藤 等

最近のITトレンドとして、Web3.0、生成AI、メタバース、量子コンピュータなどといったキーワードとともに、長引くウクライナ侵攻の影響がサイバー攻撃やセキュリティというキーワードも見られます。このような進歩が著しい情報分野の最新技術についての教育は、本校の教職員だけでは対応が難しくなっているという課題がありました。そこで、セキュリティ分野に関して、本校はセキュリティ分野において高い技術力をもつ株式会社インテリジェントウェイブと協定を締結し、情報コースの科目「セキュリティ」において企業の第一線で活躍する技術者が情報分野の最新技術についての教育に本格的に参画してもらうことになりました。近年、アントレプレナーシップ(起業家精神)教育など従来の教育とは異なる新しい形の教育が必要になると言われています。今後はこのような最新技術をもつ企業の第一線で活躍するエンジニアに教育へ参画してもらう取り組みが増えていくと思われます。



『物質環境工学科の紹介』

物質環境工学科長 宇月原 貴光

物質環境工学科では、化学や生物を中心として、身近な生活をより良くする材料の開発や複雑な環境問題にも対応できる人材の育成を目指しています。低学年では、基礎的な知識や技術(無機化学・物理化学・有機化学・分析化学・物質工学実験I、IIおよびIIIなど)を修得し、高学年では、より高度な専門教育を受けることができます。

進路に関してですが、去年は進学・就職の割合が約50%・50%でした。進学は、国立大学を中心に東京工業大学、東京農工大学、岡山大学、弘前大学、岩手大学、豊橋技術科学大学、長岡技術大学、函館高専専攻科などへ3年次編入学により進学しています。化学系の学科ということもあり、編入先として工学部だけでなく理学部・農学部などにも進学をしています。就職に関しては、道外の大手企業を中心に就職しています。学科選択の際は、色々とお悩み事があるかもしれません。その際は、学科の先生へ声をかけてみてください。

さて、皆さんの心のなかでは「まだ5年間」という感覚ではないでしょうか。5年生になると「長いようで短い5年間でした」ということになるかと思います。この5年間を有意義に過ごせるよう学校・学科でサポートしていきますので色々なことにチャレンジしてみてください。



各学科・コース紹介

『情報技術を活用して持続可能な未来社会に貢献する社会基盤工学科』

社会基盤工学科長 宮武 誠

社会基盤工学科は、私たちの生活を支える橋や道路、建物といった社会基盤施設(公共性の高いインフラ)の設計・デザイン・施工、そしてまちづくりの専門知識を学ぶ学科です。自然再生可能エネルギーの利用をはじめとした自然環境と調和する技術を組み込み、持続可能な開発目標(SDGs)、未来社会の発展に貢献する建設技術者を育成しています。近年、気候変動に伴う異常気象が顕在化している中、多種多様な自然災害を予測・解明し、皆さんの命や財産、日常生活に不可欠なライフラインを守るという重大な役割を担っている学科でもあります。

そんな建設業界は、いま大きな変換点を迎えています。それは、我が国の人口減少が進む中、建設技術者の慢性的な人手不足により、ICTやIOT技術の全面的な活用が進んでいることです。これまで以上に高度でかつ効率的にインフラ整備するためには、情報技術の活用が不可欠になっています。例を挙げれば、建設現場における無人化施工やドローンを活用したUAV測量などで、今後はAIの活用を含めた建設DXがより一層加速するものと予想されています。社会基盤工学科では、このような建設技術の変容にもいち早く対応し、持続可能な未来社会のインフラ整備を担う建設技術者を養成する学科として引き続き、学生の教育・指導に注力していきます。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行し、マスク着用や行動制限が大きく緩和された中、学生の国際交流を皮切りに高専も徐々にですが、以前の高専へ戻ろうとしています。今後、様々な学校活動が復活していく中で、技術者として有すべき倫理感や人間力、将来歩んでいくキャリアに期待が抱ける教育に全力で取り組んでいきます。



卒業研究で制作した災害時緊急仮設橋

第1学年担任団から

『楽しみましょう』

第一学年主任 清野 國安

今年度入学した学生は中学生時代の3年間は、ほぼマスクをつけての生活であったり、いろいろな学校行事が中止になったり、通常の学校生活を送ることができなかった世代です。それだけに、今年の5/8(月)からコロナが5類相当になり、一般的には様々な場面でコロナ以前の状況になりつつある中、本校に入学した皆さんは、これから勉強や課外活動・学校行事等で高専生活を有意義なものにし、希望に心を躍らせながら毎日を送っていこうと思っているのではないのでしょうか。



話は変わりますが、学年主任である私が企画を担当し、去る5/18(木)本校第2体育館において、1学年の親睦・レクリエーションとしてクラス対抗ゴルフ・アプローチ大会を開催しました。多分、殆どの学生はゴルフの経験がなかったと思いますが、クラブは本物でプラスチックの穴あきボールを使用して実施しました。私の予想通り、学生達はなかなか思うようにはいかず悪戦苦闘しながらではありましたが、結構盛り上がり、楽しそうに頑張っている姿がとても印象的でした。ちなみに本校のスポーツ科学の授業においては3年生の後期にゴルフの授業を行うのですが、それを先取りする形で行って見た次第です。結果は、優勝:4組、準優勝:1組でした。

今後いろいろと企画して1学年の親睦を深めていけたらと思っています。

『学生の皆さん、成長していますね!』

1年1組担任 長澤 修一

みなさん、こんにちは。令和5年度、1年1組の担任となった一般系教員の長澤です。よろしくお願ひします。函館高専に着任以来、担任担当の回数や年数は在職者の中では1・2位を争うほど多いです。最近では、今の3年生と5年生が1年生であったとき、それぞれ1年間担任をしておりました。今年度は3年生の物質環境工学科で物理の授業を担当していますが、このクラスの学生の様子を見て、1年だったときと比べて、人間的にも学力的にもとても立派に成長していることがうかがえます。みなさん、よくがんばっています。友人同士の協力体制もできているようで、中には一生続く、友人ができた人もいてよかったです。



1年生のみなさんも、(苦しんだりしながらでもいいので)貴重な今をがんばって乗り越えてください。まわりの教職員もサポートしますので、何かあったらまわりに話してみたり、相談してみたりしてください。そして、進級・卒業してください。

第1学年担任団から

『追い風に乗って、チャレンジしよう!』

1年2組担任 松岡 由佳

1年生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんの学年は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、様々な制約のもとで中学校時代を過ごしたのではないかと思います。オンライン授業やマスク生活、学校行事の規模縮小や中止などが続き、やりたかったけれどできなかったことがたくさん残っているのではないのでしょうか。

そうした中で、今年5月に新型コロナウイルスは5類感染症へと移行されました。引き続き感染対策は必要であり、すぐにはコロナ流行前の生活に戻るわけではありませんが、制約は少しずつ減ってきています。

これは、皆さんにとって追い風ですね。皆さんには、中学校時代にできなかったこと、高専生の今だからこそできることを見つけて、積極的にチャレンジしてほしいと思います。この1年間の皆さんのチャレンジを、先生は全力で応援します!



『よく遊び、よく遊ぼう!』

1年3組担任 須藤 絢

今年度、1年3組担任の一般系・数学担当須藤です。担任を持つとき、学生には、「メリハリをつけて、勉強するときはしっかり勉強する、遊ぶときはしっかり遊ぶ!」とよく言います。コロナ禍の不自由な生活も終わりを迎えつつある今年度は、後半の「遊ぶときはしっかり遊ぶ!」に重点を置いたクラス運営を心掛けています。しっかり遊んで、でも勉強もしっかりやっている。そんなクラスになって欲しいなと心から願っています。今のところ、そんな私の願いを叶えてくれる、とってもいい学生たちに囲まれ、私は毎日が楽しいです。学生も担任も、相手を選ぶことが出来ません。ガチャガチャみたいなのです。今年度も、どうやら私は大当たりを引いたようです。これから1年間、みんながどのように高専生活を楽しみ・学んでいくのか、担任・副担任とともにとっても楽しみにしていますし、出来る限りのサポートをしていこうと思っています。そして、担任自らもしっかり遊んで、でも仕事も手を抜かない。1年3組の学生たちを見習って、そんな1年間にしていこうと思っています。



第1学年担任団から

『函館高専で学んで欲しいこと』

1年4組担任 横山 泰範

1年生の皆さん、こんにちは。今年度4組の担任を務めている他、皆さんの化学の授業を担当しています。函館高専に着任して2年目、担任を務めるのは今年度が初めてになりますが、皆さんに函館高専での5年間、ひいてはその先の長い人生における「学び」の基礎をしっかり作ってもらえるように、一生懸命取り組んでいます。ここで言う「学び」とは、単に教科の勉強だけにとどまりません。皆さんは理数系の学校で学ぶので、どうしても「もの」を対象とした勉強が多くなりがちです。もちろんそれらも大事です。しかし皆さんは、その勉強の成果を道具として、「ひと」の生活を良くするための様々な仕事に就くことになります。ですから、「ひと」のことについてもたくさん学ぶ5年間にして欲しいと思っています。たくさんの友人を作って、相手の気持ちを思いやれる素晴らしい人になって頂けたらと思っています。コロナウィルスの影響からくる様々な制限が徐々に緩和されていき、色々なことにチャレンジできるようになりつつあります。今しかできないこと、高専でしかできないことを見つけて、仲間と共に精一杯取り組んで欲しいと思います。



『いろいろなことに積極的に取り組み、5年後大きく羽ばたいて』

1年5組担任 北見 健

4月に新生を迎えて3か月近く経ちました。今年の新生もさすが高専らしく、15歳にして将来の進路を工学系に見定めて、はっきりした目標をもって入学してきた人が多くいます。私自身が15歳のときを思い起こすと、そのような意識はとても持ててはいなかったですから、みなさんとてもまぶしく感じられます。高専では授業や実習はもちろん、課外の活動としてアカデミックなコンテストや創造的な研究発表や国際交流などのチャンスがたくさんあります。目標をもって入学してきた高専新生なら、それらの中で自分の目標につながる取り組みを見つけることができると思います。まだあまり目標がはっきりとしていないという人でも、試しにいろいろ参加してみることで何か目標を見つけることができるでしょう。ちょうど昨年までのコロナ騒ぎも一段落して、マスクを外した学生同士の交流も戻ってきました。高専で過ごす5年の間にいろいろなことに積極的に取り組んで、入学時の自分自身をどんどん超えて、5年後に大きく羽ばたいてほしいと思います。さて、私の担当科目は数学で、1年生の「基礎数学」では習熟度別のクラスのひとつを担当します。工学の基礎となる数学力の面から、新生の成長をサポートしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



新1年生代表学生のご挨拶

『1年生代表挨拶』

1年4組 佐々木 優真

私が函館工業高等専門学校で学校生活で楽しみにしていることや頑張りたいことなどをお伝えしたいと思います。

まず私が高専で楽しみにしていることは専門的な技術の勉強と高専祭です。なぜなら、高専では高校では習うことのできない高度な専門技術を勉強することができるからです。具体的には私は生産システム工学科の機械コースにとっても興味を持っています。というのも、高専体験DAYに参加したときにCADを使ってキーホルダーを作ったり、研究室に行って色々な機械をみたりしたことで、高専に入学するのがとても楽しみになりました。また、なぜ私が高専祭を楽しみにしているかと言うと、高専の先輩からとても楽しいと話を聞いたからです。その一つは、私は習い事でダンスをやっていて、高専祭でダンス愛好会がダンスを踊ると聞いたことで、できたら自分も愛好会に入ってダンスを踊りたいと思います。

次に私が高専で頑張りたいことは勉強と部活動です。勉強については、高専は合格点が60点以上なのでテスト勉強や課題提出を忘れることなくしっかりやるように心がけを徹底しています。部活動では、私は中学の頃からバスケット部に所属していたので高専でもバスケット部に入りました。実際に部活に参加してみると中学生時代との差に圧倒されたので、先輩方に負けないように一生懸命部活動に参加して頑張りたいと思います。

最後になりますが、私は高専に入学することができてとてもうれしいですし、こうして1年生代表として挨拶させていただくことができとても光栄です。今後の学校生活ではクラス代表としての自覚を持ち楽しい学校生活を送りたいです。



入学式の様子（令和5年4月5日 举行）

各学年主任から

『第2学年主任として』

第2学年主任 鳴海 雅哉

令和5年度第2学年の主任を務めます、鳴海でございます。昨年度は1年1組の担任でしたからご存知の方もいらっしゃると思います。今年1年どうぞよろしくお願いいたします。

2年生として過ごす上で、学生および保護者のみなさんに2点お伝えしたいと思います。まず、「良好な生活習慣」を構築してもらいたいということです。決まった時間に寝起きする、毎日コツコツ学習に励むなど、「望ましい形での習慣化」が進路実現への確かな道となります。付け加えれば、試験の時でも体調がいつも通りであるということも「良好な生活習慣」に含まれます。

もう一つは向上心です。野心といってもいいでしょう。「自分はどんな人間になりたいか」「どんな将来を歩みたいか」を考えてもらいたいのです。それに向けて少しずつでも改善を重ねれば、「ナリタイ自分」になれるのです。

2～3年生は学校に慣れて刺激が少ないので、ダラダラと過ごして時間を無駄にする学生が多いように思います。せつかくの余裕ある時間を、自分の成長のために使ってほしいと強く思います。



『第三学年こそ、進路について考えましょう』

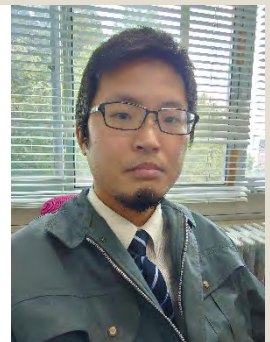
第3学年主任 鈴木 学

第三学年担任団主任の鈴木学と申します。さて第三学年といいますと、同年代の高校生は大学受験という転機に立ち向かいますが、一方の高専の第三学年は去年と変わらず大きな変化もない一年と考えている学生が多いのではないかと思います。ですがその考えでは非常にもったいないです。それは第三学年こそ『進路についてゆっくり考える』ことができる時期だからです。

まずは自分自身が今後何をしたいのかを考え、そのためには進学と就職、どちらがいいかを決めなくてははいけません。さらに大学・学部・研究室や会社・業種・職種など選択肢は多くありますが、その中で最善のものを選ぶためには広く深い情報収集が必要です。それがこの一年間だと思います。

そして、進学したいけれどできるか悩んでいる場合は、普段の定期試験を編入学試験だと思って、順位や平均点を上げるなど具体的な目標を立てて『自分が目標のためにどこまで頑張れるか』を試すべきです。落ち着いて練習ができるのもこの一年間だと思います。

保護者の皆さまにおかれましても、お子さまの進路について相談を聞いていただければと思います。この一年間を健康で有意義に過ごせることを祈念しております。

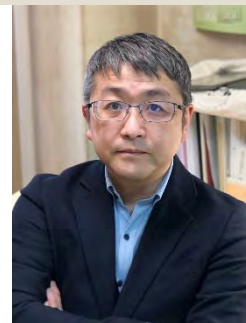


各学年主任から

『第4学年担任団から』

第4学年主任 河合 博之

高専における第4学年は特殊で非常に重要な学年です。高校を卒業し全員成人となる年代ですが、大部分の4年生にはその自覚が希薄のように思われます。大学1年生と同じ学年であるという意識を常に抱き、大人の入り口であるという自覚をもって主体的に行動できるよう、担任団として支援をする所存です。また、次年度は就職・進学活動となりますので、この1年は非常に重要な学年となります。将来の自分の夢や希望を実現するため、各自の進路について真剣に考える時間となります。稀に5年生になってから「就職どうしようかな？」と呑気に考える学生も見受けられますが、やはり遅すぎます。幸い、6月上旬の現在は、学外実習の企業選びに奮闘している時期です。学外実習選びを通じて履歴書の書き方や自己アピールの方法、自己分析等で自分自身を見直す良い経験となるでしょう。旅費・宿泊費が企業から支給されるからといって、決して遊び半分で学外実習に臨んではなりません！企業とはどのような場所か、自分の目でみて体験し将来について真剣に考えて欲しいと思います。ともあれ、無事に4年を修了し、3月の見学旅行を全員笑顔で参加できることを楽しみにしています。旅費の準備も忘れずに。



『第5学年担任団から』

第5学年主任 剣地 利昭

5年生の最大の関心事は卒業後の進路だと思います。まだ進路が未決定の5年生は焦らずしっかりと考え、自分なりの道を見つけてください。在校生のみなさんには早いうちから準備を始めることをオススメします。就職活動は企業研究と自己分析が大切です。自己分析は1年生のうちから始めてください。自身の性格や、得意・不得意を認識し、いろいろなことに挑戦して自己成長につなげてください。採用試験では学生時代に頑張ったことを聞かれます。失敗談でもPRに使えますので、どんどんチャレンジしてほしいです。企業研究も早くから始めましょう。4年生の学外実習は3年生のうちから情報収集を始め、真剣に企業を選んでください。6月頃に応募締め切りの企業が多いようです。4年生の秋から本格的な就職活動がはじまります。地域連携協力会主催の企業研究会などで多くの企業を知り、自分に合った企業を見つけます。3月に第一回の採用面談を実施する企業も増えているので早めに準備をしてください。ただし慌てて適当に決めないでください。4月に入ってから受験する学生も多いので大丈夫です。大学へ編入学を考えている学生は受験勉強に取り組むとともにTOEICを4年生のうち何回も受験してください。TOEIC未受験では出願できない大学や専攻科もありますので注意しましょう。



新任教員紹介

氏名：吉田 圭輔

①採用年月日：令和5年4月1日

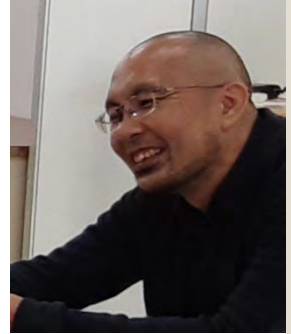
②所属・職名：生産システム工学科 機械コース 講師

③趣味：ダシにこだわって料理をつくること、ガンプラを子供とつくること、ラグビー、散髪(毛刈り)

④抱負など：

はじめまして、吉田圭輔と申します、本校のOBで、学生時代はラグビーと勉強に精を出していました。大学卒業後、スポーツメーカー3年間、工業高校定時制11年間の勤務を経て、母校へ戻って参りました。自分が教わっていた先生方に“センセイ”と呼ばれる度にドキッとする毎日を送っております。

私は、本校で技術者としての知識、技術の基礎を学びました。そして、この頃自分の目指す生き方、目標も朧気ながら見えてきたように記憶しています。この5年間で学生の皆さんの輝かしい未来につながるよう、お手伝いできればと思っています。一緒に頑張りましょう！



氏名：金 俊之(こん としゆき)

①採用年月日：令和5年4月1日

②所属・職名：社会基盤工学科 准教授

／ 博士(農学)、技術士(建設部門)

③抱負など：

『2つのソウゾウカ』

約20年間の社会人経験(土木技術職：建設コンサルタント、地方公務員)を経て、着任しました。本校採用面接時、阿部校長へ伝えた高専生の印象は「概念で言えば $1+1=2$ の計算は早くでき優秀、ただ $1+1$ を2より大きくする力は弱い」でした。いま学生と接する機会が増え「暗記の上に成り立つ優秀さ」を実感しています。2つのソウゾウとは「想像(imagination)」と「創造(creativity)」であり、私のポリシーです。私は自然災害(特に土砂災害)の防災・減災を専門としており、様々な事象から自然変化を「想像」し、防災・減災を「創造」していくプロセスを大切にしています。2つのソウゾウを学生が意識し、さらにワクワクも加えることで“優秀さ”に“実践”が伴ってきます。この観点から、面白おかしく、だけど真面目に熱意をもって学生と向き合っていきます。



新任教員紹介

氏名：隅田 真一郎

①採用年月日：令和5年4月1日

②所属・職名：一般系 准教授

③趣味：アウトドア（キャンプ、スノーボード、畑）

抱負など

この度、一般系（数学）で着任しました隅田真一郎と申します。本校を卒業し大学を出た後、昨年度まで道内の公立高校教員として勤務しておりました。この度、ご縁があり二十数年ぶりに母校へ戻って参りました。教育に携わってきた身として、母校で働けることをとても嬉しく感慨深く感じております。

私自身、社会に出て働く中で、高専卒で良かったなと思う場面が多くありました。それは、15歳から高い専門性に触れられたこと、研究のイロハを肌で感じられる環境にいたこと、研究と教育の両立をしている教員の姿を間近で見られたこと、自由な校風のもと自主性と柔軟性を身に付けることができたこと、適当とテキトーの違いを学ぶことができたこと、数え上げればキリがありません。教員として母校に戻ってきた今、目の前の学生達にも、社会に出た時に高専卒で良かったなと思ってもらえるよう汗を流していきたいと思っています。これからどうぞよろしく願いいたします。



KOSEN コモンズ函館（令和5年7月開所）

新任職員紹介

氏名：花島 純

①採用年月日：令和5年4月1日

②所属・職名：事務部長

③趣味：テニス

④抱負など：

4月から事務部長として勤務しております花島と申します。3月まで北海道大学で勤務しておりました。函館転勤は3度目で、とても住みやすい街だと感じております。これまで、北海道大学、北海道教育大学、旭川医科大学の経験はありますが、高専での勤務は初めてとなります。不慣れな点が多々あろうかと思いますが、少しでも貢献できるよう努めて参りますのでよろしくお願いいたします。



氏名：渡邊 秀雄

①採用年月日：令和5年4月1日

②所属・職名：総務課長

③趣味：サッカー観戦、マラソン

④抱負など：

4月より総務課にて勤務させていただいております渡邊と申します。実は私、平成10年10月に本校に事務職員として採用頂き、平成13年3月まで当時の学生課で勤務しておりましたので、実に20数年ぶりの函館高専勤務となります。

もとより微力ではありますが、これまでの経験をもとに、本校のさらなる発展に尽力してまいりたいと考えております。

よろしくお願い申し上げます。



氏名：松橋 智子

①採用年月日：令和5年4月1日

②所属・職名：学生課・課長

③趣味：食べ歩き、音楽鑑賞

④抱負など：

4月から学生課長として勤務させていただくこととなりました松橋と申します。3月までは北海道教育大学で勤務しておりました。高等専門学校での勤務は初めてですが、大学と比べて学生の皆さんと接する機会も多く、とても身近に感じています。いろいろな面で学生の皆さんのお役に立てるよう精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



新任職員紹介

氏名：千葉 美那

- ①採用年月日：令和5年4月1日
- ②所属・職名：技術教育支援センター 技術職員
- ③趣味：ファッション雑誌、漫画を読む
- ④抱負など：

このたび、4月から技術職員として採用されました。前職はシステムエンジニアとして働いており、ソフトウェア開発を行っておりました。

函館高専は私の母校でもあり、当時の情報工学科で5年間学びました。私にとって函館高専は学ぶ場所でしたが、私が授業を支援する立場になったことがまだ不思議な感覚です。

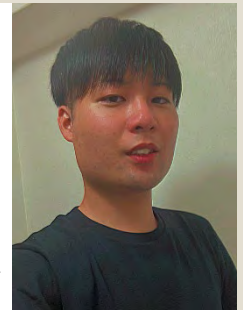
慣れないことばかりで至らない点も多いと思いますが、少しでも早く仕事を覚えて、皆様のお役に立てるよう頑張ってお参りますので、よろしくお願いいたします。



氏名：秋田谷 陸

- ①採用年月日：令和5年4月1日
- ②所属・職名：学生課寮務係
- ③趣味：バレーボール、競馬、アイロンがけ
- ④抱負など：

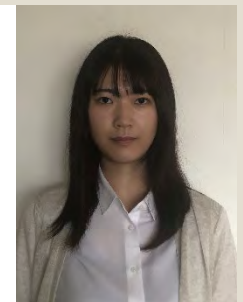
学生課寮務係の秋田谷陸です。出身は青森県で函館市には小学校の修学旅行以来、13年ぶりに上陸しました。人生のモットーは「すべてを楽しむ。」です。今年度の目標として2つあります。1つ目は感謝と挨拶の励行です。若さを存分に生かして元気な挨拶を続けていきたいと思ひます。2つ目は男子バレーボール部の一員として専体協で全道優勝し、全国大会に出場することです。どちらの目標も達成できますよう精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。健康の秘訣は毎朝、青汁を飲んでいて、5年前から髪は1,000円カットで切っています。



氏名：新田 智美

- ①採用年月日：令和5年4月1日
- ②所属・職名：学生課 事務補佐員
- ③趣味：ジャルジャル
- ④抱負など：

4月より学生課の事務補佐員として勤務しております新田と申します。不慣れな点も多くありますが、少しでも皆様のお役に立てるよう努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。



学校だより 第216号 令和5年7月発行
発行 函館工業高等専門学校広報委員会
〒042-8501 函館市戸倉町14番1号
TEL：0138-59-6491
FAX：0138-59-6330